

○ 3年間の学びを胸に、それぞれの道へ進め！

右の写真は、明日卒業する3年生が入学したときの様子です。まだ幼い顔立ちに緊張した表情が見受けられます。あれから瞬く間に3年が過ぎました。

中学校の3年間は、小学生と比べて、活動の範囲が広がり、子どもたちは少年・少女から青年へと近づいていきます。そして、身体の成長に伴って、心が大きく揺れ動く時期です。そこで大切になるのが大人の関わりになるのですが……。

先日、新聞に次のような記事が掲載されました。「虐待された疑いがあるとして、昨年1年間に全国の警察が児童相談所に通告した18歳未満の子どもは前年より11,204人多い65,431人だった。統計を取り始めた2004年の962人から13年連続の増加で、初めて6万人を突破。増加分の多くは、暴言などの心理的虐待だった。」(3/9付 長崎新聞)

以前、校区内に児童養護施設がある学校に勤務したことがあります。その施設には、下は乳幼児から上は18歳までの多くの子どもたちが一緒に生活をしていました。保護者の暴力による虐待や育児放棄、さらには保護者の自殺など入所の理由は様々ですが、いずれも家庭という安らぎの居場所をなくし、心に大きな傷を負った子どもたちでした。身体の傷はすぐに治療することができますが、心の傷を完全に癒やすにはかなりの時間を必要とします。治ったように見えても数年後にまたフラッシュバックすることもあります。そして、「小さい頃に暴力を受けて育った子どもは、大きくなると暴力を振るうようになる」と言われるように、施設の中にも暴力や非行に走る子どもたちもいました。その子どもたちは愛情に飢えていました。人の優しさを求めています。運命と呼ぶにはあまりにも厳しい現実がそこにはありました。

さて、97名の3年生が明日、中里中学校を巣立ちます。親のたくさんの愛情と期待を受け、頼りになる仲間たちと生活を共にしてきた3年生。いよいよ、それぞれが自分の世界へ飛び立っていきます。飛び立つ先は不透明で視界が悪い世界です。多くの困難が待っているかもしれません。進化論で有名なダーウィンは次のように言っています。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である。」

これからの変化の激しい時代は、変化の程度を敏感に感じ取り、流れに乗ることも必要なのかもしれません。97名の卒業生の前途に幸多からんことを心よりお祈りいたします。



○ 中学生も大活躍！～第37回中里皆瀬地区公民館まつり～

3月11日(日)、中里皆瀬地区公民館周辺で「第37回中里皆瀬地区公民館まつり」が開催されました。すばらしい春の陽気に恵まれ、大勢の人で賑わいを見せていました。

文化ホールの各団体による出し物では、中里中学校の生徒会役員が司会・進行を務め、スムーズな会の進行を行いました。また、午後には吹奏楽部が「レイン」と「HANABI」の2曲の演奏を披露し、会場の雰囲気盛り上げました。公民館の講堂には、習字や絵画等の生徒作品も展示され、多くの町民の方々に中学生の技術の高さを見ていただくことができました。地域の行事は、地域の活動を盛り上げる宝です。来年度は、さらに盛り上がる「まつり」になることを期待したいと思います。



◇ 1年間、図書ボランティア ありがとうございました！ ◇



中里中学校「はるばる図書館？」での、図書ボランティアの皆さんの活動が、先週金曜日で終了しました。使いやすい図書館だけでなく、校内の様々な掲示物を通して、心に潤いを与えていただきました。1年間の活動大変お疲れ様でした。

